

目次

ホームページの基礎知識	2
第1章 はじめに	2
第2章 ホームページの書き方	2
(1) 主なタグの種類	2
(2) テーブルの作り方	2
(3) ハイパーリンク	3
第3章 ホームページの保存と更新	3
(1) 作成したホームページの保存	3
(2) ホームページの表示確認	3
(3) ホームページの更新手順	3
第4章 ホームページの公開	3
(1) 公開用フォルダ	3
(2) 公開したページのブラウジング	3
第5章 スタイルシート	4
第6章 おわりに	4

(表目次)

表 1 色の指定	2
表 2 テーブルの例	2
表 3 スタイルシートの指定例	4

ホームページの基礎知識

第1章 はじめに

インターネットに接続されたパソコンから検索・閲覧できる情報ページのことをホームページといいます。ホームページは別名ウェブページとも呼ばれ、HTML¹という形式で記述されています。それぞれのホームページには所在(アドレス)を表すURL²が付いています。

第2章 ホームページの書き方

HTMLを構成する基本単位をタグと呼びます。タグを使うことで、文字、画像、色、ハイパーリンクなど様々な情報を、ホームページ上で表現することができます。

(1) 主なタグの種類

見出しタグ・・・タイトルや見出しを指定します。

段落タグ・・・まとまりのある説明や文章を段落として指定します。

イメージタグ・・・写真や画像を指定します。

色の指定・・・色名による指定、RGB指定(#rrggbb)などがあります。

色の種類	色名	RGB指定
赤	red	#ff0000
白	white	#ffffff
黒	black	#000000

表1 色の指定

(2) テーブルの作り方

テーブルとは、次のように縦と横のマス目で表現された「表」のことです。

	1月	2月	3月
東京本店			
横浜支店			
藤沢支店			

表2 テーブルの例

¹ HTML (Hyper Text Markup Language)

² URL(Uniform Resource Locator)

(3) ハイパーリンク

あるページから別のページへジャンプするための機能をハイパーリンクといいます。HTML 文書の特徴的な機能の 1 つといえます。多くの場合、ハイパーリンクの文字には下線(アンダーライン)が付いています。また写真や画像にリンクを付けることもできます。

第3章 ホームページの保存と更新

(1) 作成したホームページの保存

メニューの [ファイル] - [名前を付けて保存] をクリックします。

「保存する場所」をマイドキュメントの中の Web 用フォルダにします。

保存するファイル名を入力します。

(注)・ファイル名は半角の英数字とする。(たとえば myweb.html)

・トップページの名前は index.html とする。

(2) ホームページの表示確認

保存したフォルダの中にある「xxxxx.html」をダブルクリックします。

(3) ホームページの更新手順

テキストエディタ (TeraPad) を開き、HTML ファイルを修正します。

「上書き保存」します。

ブラウザの「更新」ボタンをクリックします。

第4章 ホームページの公開

(1) 公開用フォルダ

作成したホームページ (HTML ファイル) をデスクトップ上の「HTML Home」フォルダにコピーします。(このフォルダは公開用であり、ファイルをコピーした時点で、湘南キャンパス内に公開されます。)

(2) 公開したページのブラウジング

公開したページのアドレス (URL) を入力すると、ホームページを見ることができます。

第5章 スタイルシート

スタイルシート (CSS³) は、ホームページのデザイン (見栄え) を定義・記述するための技法です。HTML 文書の内容を「構造」と「見栄え」に分けることができるので、効率的なウェブ管理が可能になります。また文字や画像の配置、行間などを細かく設定することができます。ページの内容(コンテンツ)とデザインを、別々に管理することができるため、デザインの一括変更など、ページの管理が楽になります。

種類	項目	種類	項目
文字サイズ	font-size	行間隔	line-height
文字の太さ	font-weight	文字配置	text-align
文字スタイル	font-style	文字装飾	text-decoration

表 3 スタイルシートの指定例

第6章 おわりに

従来は、社会に向けて何か情報を発信しようという場合、テレビ・ラジオ・新聞・書籍などのメディアを利用する必要があり、個人のレベルで簡単にできることではありませんでした。インターネットの誕生によって、誰もが比較的簡単な操作で情報発信することが可能になりました。インターネット利用者が増加し、ネットワーク環境が整備されていく中で、多くの人にとって使いやすいウェブコンテンツを提供することが、今後ますます重要になるでしょう。